

<u>人間の「生きていく気力」を育てる</u>

長野翔和学園 学校案内



官民共同で設置する学びの場「長野翔和学園」

長野県知事 ご挨拶

私は、この度誘致される発達支援を専門的に行う学びの場『長野翔和学園』が「官民連 携の下、発達障害者の教育的支援に大きな成果を上げてくれるものと期待しています。県 もしっかり応援致しますのでぜひ県民のみなさまのご理解とご支援を何卒よろしくお願い 長野県知事 阿部 守一 いたします。

長野翔翔和学園学園長 挨拶

翔和学園の教育の目的は、生きていく気力を育てることです。

そのために、発達障害やそれに類似する苦手さをもつ若者たちに青春を謳歌させることを 第一義とします。それが、就労への確かな道であり、安定的・継続的な社会参加に不可欠な 要素であると、私たちは考えています。



翔和学園で新たに出会った仲間そして先生と共に、幸せな子ども時代、そして誰もが憧れる青春時代を過ごす。その ことを通じて、人間関係を結ぶ力を培い、生きていく気力を育んでいく。そうして、青春時代の思い出をたっぷりと心 に刻むことこそが、社会に出ていくための準備であると考えています。

私たちは、人間の生きていく気力に満ちた「よき人生」を翔和学園とつながりをもつ全ての人たちと共に歩みたいと 願っています。また、そのつながりの輪を翔和学園から長野県内全域そして全国へ広げ続けていくことが私たちの夢で す。そのために職員全員が「人間の生きていく気力を育てる」ことに飽くなき執念を燃やす、それが私たちが大切にし 長野翔和学園 学園長 伊藤 寛晃 ている翔和魂です。

「仲間と一緒に青春時代を過ごしたい。」「夢中になれる何かを見つけたい。」

「もっと学生として学びたい。」「人間関係に自信をつけたい。」

でも、大学・専門学校に行くのはちょっと不安・・・。

長野翔和学園大学部はそんな若者のニーズにこたえる学びの場です。

今しか出来ない青春

正直周りを見ると同じ年の同じような子はもう就職をしていたり専門学校へ行っていたりで、我が子はこんなのんびりで良いのかと焦る気持ちもありました。でも、今の歳で味わって欲しかった、今しかできない「青春」を身体中で感じ表現している姿を見て本当に良かったと思いました。

(卒業生の保護者より)

10年前の僕へ

もう泣かないでいいよ。もう、そんなに狭い所で人の目を気にしてかくれないでも大丈夫だよ。この先、素敵な仲間たちと出会うから。でも何があるのかは、まだ君には教えてあげないね。この先で様々なことにぶつかり、きっとこの学校にたどりつき、幸せになっているから・・・。

(作文「10年前の僕へ」より)

長野翔和学園は

「**教育と福祉の垣根を超えた進化型青春支援モデル**」を提案するNPO法人です。

〈進化型青春支援モデル〉とは

「就学から就労までの一貫した情熱的な学び」と「自己実現を果たすための就労」を デザインし、「**感動的な青春の謳歌**」を共創する、教育・福祉統合型のニューロダイ バーシティコミュニティを形成するモデルです

|教育理念||人間の「生きていく気力」を育てる

〈「生きていく気力」の定義〉

「夢を叶えたい」「自分の可能性を伸ばしたい」「世の中の役に立ちたい」という願望

〈青春を謳歌する〉

仲間たちと魂のやり取りをしながら、人間の根っこが奮い立つような体験をし、保護者の感動と人々からの高い賞賛・感謝を体感し、過去を受け入れ未来に希望を持つ。このプロセスを「青春の謳歌」と呼んでいます。このことが、安定的・継続的な社会参加に不可欠であり、就労への確かな道でもあります。

年齢によらず「今」必要な学習 ~カリキュラム紹介~

(2023年4月~6月※随時変更があります)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
登校	10:30	9:30			
移動	9:45 校舎出発 10:00 小田切到着(月曜日は 1 時間予定を後ろ倒し)				
10:00	運動タイム ①散歩 ②ハイキング ③ジョギング / ヨガ				
10:50	おやつタイム / スマホタイム				
11:00		PBLタイム		芸能	PBLタイム
12:30	昼食・ヲタクタイム				
13:30	PBLタイム		小田切出発 13:50校舎着		PBLタイム
14:00			コグトレ		
14:40	小田切出発	15:00校舎着	14:30	音楽	小田切出発
15:00	リフレクションタイム 15:30 下校				
放課後	マイプロジェクト(希望者のみ)				

	脳のエネルギー消費に対するリカバリー。
運動タイム	歩く走るは体の軸を作るために。ヨガの動きと呼吸で自律神経系に安全をもたらす。 身体と神経が整い、感情と記憶が整理され、思考が上手に働くことによって、様々な恐怖や不安に 対する自己防衛から解き放たれ学生たちが才能を発揮し、情熱的に学習する準備。

安全な状態で学習に向かう準備。

目的と内容

プログラム

おやつタイム

血糖値を上げ、空腹のイライラを避けることで安定と集中を保つ。

プログラム	目的と内容
リフレクション タイム	自分自身を自分で振り返る練習をする。 もう一人の自分の目で自分を見る(メタ認知・客観視)。 今日あったこと、それは自分のどんな経験に基づき、どんな感情が紐づけられているのか、 自分自身が持っている価値観は何か、深く見つめる。
マイプロジェクト	パーソナライズを基盤とし、差異能を生かした価値ある学びを実現する。 集団ではなく、自分だけで行う学び。本当の意味での個別最適化。 差異能を発揮でき、かつ、情熱を燃やせる学習を職員と共に1人1人が作っていく。
その他芸能	「 できた」を楽しく体感する。 何度失敗しても諦めずに繰り返しやることで努力は実るという達成感を得る。 学生たちが達成感を得た芸能は周囲からのポジティブな評価につながる。
その他音楽	人間の身体はたくさんのリズムで溢れている。 リズムに乗れる、音を聴ける(メロディー)、そして合わせる(ハーモニー)喜びを知る。 社会交流のスイッチがオンになり、自律神経が安全に保たれる。

行事

[「わかる」を「できる」にする]

学んで身につけたことを実生活で活かす

翔和学園では「行事は授業での学びを実践する場」と定義づけ、授業と同様に行事を重視しています。

授業で学んだことを行事で実践、行事で浮き彫りになった問題点を、また授業で学んで次の 行事に活かす。

この「授業と行事の往復学習」が翔和学園の教育の大きな特徴です。

[2023年年間行事予定]

- ◆4月 祝い餅
- ◆5月 春の遠足
- ◆6月 成果発表
- ◆7月 流しそうめん
- ◆8月 びんずる祭り参加
- ◆10月 成果発表

- ◆ 1 1 月 秋合宿
- ◆12月 成果発表
- ◆1月 雑煮
- ◆2月 冬合宿
- ◆3月 修了式

所在地

[住所] 〒380-0958 長野市伊勢宮1-22-5 Mシティビル1階

[電話] 026-219-1127 [FAX] 026-219-1128





- ◆JR長野駅善光寺口バス乗場より 22番系統バスに乗車 「伊勢宮団地入口」バス停より徒歩2分
- ◆JR安茂里駅徒歩15分
- ◆車を利用する場合 上信越自動車道長野インターから車で 約20分

福祉制度を組み合わせた就労までの教育的支援

 1年目
 2年目
 3年目
 4年目

 自立訓練(生活)
 切替り 判定
 就労移行支援

就労継続支援 B型

授業・行事・プロジェクト

子どもの要素を使い切る

大人として活動する

就職活動

ひとり一人の 人生設計に あわせた 継続的な支援

青春を謳歌する

- ★通常入学後2年間は自立訓練事業を利用します
- ★3年目以降は、自立の度合や就労の意欲に基づき、就労移行支援事業を利用します。
- ★令和3年9月以降から、就労継続支援B型を利用できるようになりました
- ★大学部修了の目安は約3年間です

劇的に変わったAさん

中学は保健室に1時間行って帰る毎日を送っていたAさん。翔和学園でも、廊下でゲームをして活動には入れないことが続いたが小田切で活動を続ける中で、少しずつ仲間が作るものに興味を持っていった。

大きな門を作るプロジェクトが始まったのは教室の後ろの方で授業を聞くことが多くなってきていた時だった。小田切在住の元大工さんに教わるうちに活動に夢中になっていった。それまで仙人のように伸ばしたままのひげが、このプロジェクト後にはきれいに剃られ、年中かぶって顔を隠していたフードも要らなくなった。そこからは活動に入りその後の東屋プロジェクトでも活躍し、今は長野翔和学園の実習生として就労を目指している。

高等部から入学しているBさん

教室の後ろで寝ているか、休憩室のベッドで寝る毎日。気に入らないことがあると物を投げ「死んでやる」と道路に飛び出した。 慣れてくるとずっと話しかけてくる。話すのを止められない。それに相槌を打ちながらいつの間にか活動に入れている 状態を作っていった。どんなに小さいことでも少しでも進んだら褒めまくるうちに、次第に自然と活動に入る頻度が増

状態を作っていった。どんなに小さいことでも少しでも進んだら褒めまくるうちに、次第に自然と活動に入る頻度が増えていった。 皆の前で発表や発言をするのが苦手で出来なかったが、書いたノートを褒められるうちに先生に見せに来るようになり、最後には自分で手を挙げて言えるようになった。ノートは教室の誰よりも多く書いた。先生だけでなく仲間にも褒められるようになった。中学からできなかった友達がやっと出来た、と話してくれた。 今では実習生の中でも抜群に世話を焼く先輩として率先して仕事に取り組み、就労を目指している。

場面緘黙症で家庭以外では話せないCさん

1年時は週に1回しか登校できなかったのが今は毎日登校している。母が送迎しないと来れなかったのが、翔和学園で少しずつ電車とバスに乗る練習をし、自分で通えることが出来るようになってきた。話す練習も前向きに取り組み、一部の教員とは話が出来るようにまで自分を出せるようになった。いつか仲間と話せる日を目指して今は就労訓練の場で活動している。

やり抜いたD君

9年間不登校で、入学当初は週に2日午前のみの登校、登校することだけで疲れるため授業には参加できなかった。時には物に当たるなどの暴力的な方法で「やりたくない」という意思を押し通していた。地道に対話を続け、活躍の場を設け、それらを何度も何度も繰り返し、会話のキャッチボールが生まれていった。人前に出るのが嫌で教室の隅でスマホに向き合っていたのが、少しずつ活動に混じれるようになり先生がいなくても友達と話せるようにもなった。卒業式前日、「逃げ道は自分で断ったので」と笑顔で話し、修了式でスピーチを見事にやり遂げた。今年の4月からワークセンターで就労に向けての準備を頑張っている。

仲間と出会ったE君

E君は「これまで人をいじめてきた側だ」と話す。こだわりが人一倍強いため、これまでの学校生活は仲間と衝突して ばかりで、気が付くと周りにはだれも友達がいなくなっていたそうだ。「友達が欲しい」と入学したが、1年目また嫌わ れるかもしれない、人を傷つけてしまうかもしれないと怖くて、いつも人の輪から離れた場所にいた。学園の生活に慣 れると、自分が不安なとき不快なとき、環境や人のせいにして逃げたり、攻撃したりしていることを感じられるように なった。学園生活を続けていると、得意な意見発表で「すげー!」と称賛されたり、自慢の料理をふるまって「おいし いね!ありがとう。また食べたいな」と感謝されて自信がつき、仲間との距離は緩やかに近づいていった。しかしささ いなことがうまくいかずに自暴自棄になってスマートフォンを床に叩きつけたり、「俺が死ねばいいんだ!」と叫ぶこ とは相変わらずで、仲間とのつながりを深めることは容易ではなかった。翔和学園では、だれかが辛そうにしていると き、仲間や先輩が声をかけ続けてくれる。「大丈夫?おれもそうなんだよな。むずかしいんだよねー」「本当はどうし たかったの?」Eくんも入学してから何度も何度も、優しく声をかけてもらっていた。こうして先輩になったE君は、暴 力や暴言に頼ってしまう自分を変えたいと思い始め、感情や行動の振り返りを繰り返すうち、3年の修了式のスピーチで は『皆のおかげで優しさだけではなく仲間への信頼も生まれた。私はこれからの人との出会いを大切にし、その人たち と強い信頼を結びたい。それが私の願いです』と発表した。4月から仲間とWSに進み、就職に向けて新たな一歩を踏み 出す。

今までずっと地獄だった。と話したF君

高校卒業後家居を経て翔和学園に入学してきたF君は、あまり覇気が無かった。言われるがままに活動し、帰っていく日々。個人製作の活動でシール貼り絵に取り組むんだ。繊細な作業のための練習を何度も繰り返し、一人で作品がいくつも作れるようになってきたころ、唐突にF君が「虹が見えた」と話した。その時は外を眺めていたから、虹が出てたんだ!と話をしながら新しい材料を渡した。その直後、涙を流しはじめたF君。話を聞くと、嬉しくて泣き出した。普段はあまりはっきりと話さないF君がこの時話した言葉は「貼り絵ができて嬉しい。できると思っていなかった。今までずっと地獄だった。死ぬと思った。地獄に落ちると思ってた。」「嬉しい、幸せだ」話す間もずっと泣いていた。現在は翔和学園の職員として校舎内の清掃を担当し、トイレも含め全体を一人で清潔に保っている。





よくあるご質問のQ&A

Q1 入学に際して学力試験などはありますか?

学力試験はありません。本人の意思を確認しています。

教育・福祉の対象は「人間の生きていく気力」を必要とするすべての人です。

<u>Q2 毎日通えないと入学出来ませんか?</u>

通学日数や登校時間についてはご相談ください。無理なく通えるように支援します。

<u>Q3 年度途中での入学はできますか?</u>

いつでも入学可能です。お問い合わせください。

<u>Q4 対象年齢はどれくらいまでですか?</u>

概ね30歳程度の方までです。

Q5 各学部の在籍人数は何人ですか?

大学部・・・・13人 ワークセンター長野翔和・・・・13人 (2023.04.01現在)

よくあるご質問のQ&A つづき

Q6 通学定期は購入できますか

民間教育機関の位置づけのため、一般の定期券を購入していただきます。

<u>Q7 大卒や高卒の資格は取得できますか?</u>

大卒・高卒資格は取得できません。資格取得のための学習支援をしています。

Q8 家から学校が遠く、通うことが出来ません。寮などはありますか?

長野市川中島に男子学生寮があります。学校まで、徒歩+電車+徒歩で約25分です。

Q9 卒業後の進路は?

大学や専門学校などへの進学、就労や長野翔和の就労移行支援、その他の支援機関等様々です。

ご本人・ご家族・支援で何度も話し合って進路を選択します。

※その他、疑問などがありましたらお気軽にお問い合わせください。

翔和学園の歴史

援するため、さらなる飛躍をめざします。

翔和学園(旧称ステップアップアカデミー)は、発達障害を抱えていたり、人間関係やコミュニケーションに不安のある学生など、18歳以上の教育的支援を必要とする若者たちが社会性を学び、集団の中で生きていく力を養い、社会的自立をめざすための学校として1999年4月に設立されました。

設立当初、ステップアップアカデミーの前身であるグローバルアカデミーでは、福祉コースとコンピュータコースを柱に、主に就労から自立に向けた技術支援中心のカリキュラムを実践してきました。しかし、活動を続けていく中で、ここに来ている学生達にとって必要なことは、就労や自立をめざすために先ず、日常生活場面での基本的な生活力を身につけることであるということを強く認識するに至りました。

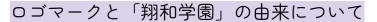
練校、専門性の高いいわゆる専門学校とは一線を画し、「社会性を学び、集団の中で生きる力を身につける」 という目的を第一に掲げ、実践する学園として生まれ変わりました。

そこで、2002年4月、グローバルアカデミーをステップアップアカデミーと改称、本学園は養護学校や職業訓

2004年4月に対象を拡大して高等部を設立、さらに2005年10月には小中学部を開設し、小中学部から高等部、大学部、そして社会的自立へと一貫した特別支援教育をめざし活動中です。そして、ステップアップアカデミーは2006年4月より呼称を改め、小中学部、高等部、大学部を総称して「翔和学園」としました。

2014年4月より、官民共同の「学びの場」として「長野翔和学園」を開校、より多くの若者たちを専門的に支

15





翔和学園

SHOWA GAKUEN

人と人の「和」のなかで生きていく力を身につけ、みんなで社会へ「翔」び立つ。 そのような思いをこめてこの学校を「翔和 学園」と名づけました。

翔和学園のロゴマークは「翔和マーク」と名付けました。たがいに手をとりあう人と人とが「翔和」の頭文字「S」をかたどっています。

「わかっている」ことと<mark>「できる」</mark>こと

この両者の間には、気の遠くなるような距離があります。

例えば、「あいさつをしよう」ということを伝えるには 1 分あれば十分です。「あいさつの大切さ」を理解させるには 3 0 分の授業を行います。授業中にあいさつの練習をするとみんな 1 0 0 点満点のあいさつができます。しかし、学園内で突然の来客をすれ違ったときに、さっとあいさつができる学生は 1 割程度です。外出先で挨拶できる人はもっと少なくなるでしょう。

「あいさつの大切さ」、「あいさつの必要性」の理解と、実際に「あいさつできる」こととの間には気の遠くなるような距離があります。

「仲間と仲良くしよう」ということも同じです。そのことを伝えるのは実に簡単です。しかし、「実際に仲間と仲良くできるようにする」のはとても大変なことです。いわんや、「友情について理解させながら学んでいく」方法で親友を作ることなど不可能に近いかも知れません。「仲間と仲良くできる」には学生自身が受け入れられる経験を浴びるほどしなければならないのです。本気のケンカも不可欠です。そして、何よりケンカしても仲直りできたという体験がなければ、人を信じ、仲良くするのは困難でしょう。

「わかっている」ことと「できる」ことの距離を一歩一歩縮めていきます。

